

VOICES from the ARCTIC

Vol.49 / 2025.3.7

ArCS II 国際政治課題
北極域実践コミュニティ事務局



NASAのレーダーがグリーンランドの氷の下に隠された冷戦時代の「都市」を明らかに



グリーンランドの氷床上空で航空調査を行っていたNASAの科学者たちが、驚くべき発見をした。それは、氷の下約30メートルに埋もれた、冷戦時代の米軍基地「キャンプ・センチュリー」である。高度なレーダー技術により、氷床を貫通する通常の観測中に基地の構造が検出された。この発見についてスミソニアン誌が報じた。

キャンプ・センチュリーの再発見は、あまり知られていない冷戦史の一章を明らかにするだけでなく、環境への懸念も引き起こしている。気候変動による氷の融解が加速する中、放射性廃棄物やディーゼル燃料などの危険物が環境中に放出される可能性もある。これは、地域の生態系にリスクをもたらし、歴史的な軍事活動が長期的に与える影響を浮き彫りにしている。

記事参照：NASA radar unveils hidden Cold War 'city under the ice' in Greenland - ArcticToday (2024.12.3)

注目すべき研究：地域ごとの気温上昇は科学者のシミュレーションを上回るペースで進行中



最近の報告書で、研究者らはここ数十年にわたる世界的な異常気温の変化を数値化することに成功した。これにより、最も高温な気温がより穏やかな気温よりも大幅に速いペースで上昇している地域が明らかとなった。これらの地域では、気候モデルのシミュレーションにおいて、傾向が大幅に過小評価されている。

記事参照：Research in Focus: Regional temperature increases are outpacing scientists' simulations - ArcticToday (2024.12.4/Arctic Today)



Photo: Derek Oyen via Unsplash.

北極海は2027年までに初めて 氷のない日を迎える可能性が ある



Nature Communications誌に掲載され、Oceanographic Magazine誌が伝えた新しい研究は、北極海の海水の将来について憂慮すべき予測を明らかにしている。それによると、北極海が初めて氷のない日を迎えるのは早ければ2027年になる可能性があり、これは加速する気候変動の影響を示す劇的な節目となる。このシナリオは、かつては数十年先のことと考えられていたが、地球上で最も敏感かつ重要な地域のひとつで急速な変化が起きていることの証である。

記事参照：Arctic Ocean could see its first ice-free day by 2027 - ArcticToday
(2024.12.5/Arctic Today)

カナダ北極域の村が永久凍土 の融解で移転の危機に直面



ニューヨーク・タイムズ紙の報道によると、カナダ北極域では前例のない永久凍土の融解が起こっており、Tuktoyaktuk村のような地域社会に壊滅的な影響を及ぼしている。北極海沿岸に位置するTuktoyaktuk村はInuvialuit族の居住地であり、生活やインフラに深刻な混乱が生じている。

記事参照：Canadian Arctic hamlet faces displacement as permafrost thaw worsens - ArcticToday (2024.12.9/Arctic Today)

カナダ、野心的な北極政策を 打ち出す—アンカレッジと ヌークに新たな領事館を設置



12月6日、カナダの外務大臣メラニー・ジョリー氏は、気候変動、地政学的な緊張、外国からの干渉から北極域を守ることを目的とした包括的な北極政策を発表した。オタワでの記者会見で、ジョリー氏は北極域の戦略的重要性と、その保護と開発を主導するカナダの責任について説明した。また、この政策では、アラスカ州アンカレッジとグリーンランドのヌークにカナダ領事館を設置し、新たな外交インフラを導入するとしている。これらのオフィスは、北極域の近隣諸国との協力関係を促進し、共通の課題に対処することを目的としている。

記事参照：Canada launches ambitious Arctic policy—new consulates in Anchorage and Nuuk - ArcticToday (2024.12.6/Arctic Today)



G7外相会合に出席した米国のアンソニー・ブリンケン国務長官(左)とメラニー・ジョリー(右から2人目)。(DPA/PICTURE ALLIANCE、ロイター)

北極域のツンドラ地帯、吸収量よりも排出量が多くなる ことがNOAAの報告で明らかに



長年、重要な炭素吸収源と考えられてきた北極域のツンドラ地帯が、二酸化炭素排出の純供給源となっていることが、アメリカ海洋大気庁（NOAA）の2024年北極圏報告書で明らかになった。この憂慮すべき変化は、気温上昇、山火事の増加、永久凍土の融解加速が原因である。

記事参照：Arctic tundra now emitting more carbon than it absorbs, NOAA report reveals - ArcticToday (2024.12.11/Arctic Today)

北極海航路の海運量、2024年には300万t近くで過去最高を記録



gCaptainの報告によると、2024年の北極海の海運量は過去最高を記録し、北極海航路（NSR）では97回の航行が行われ、貨物量は300万近くに達した。これは、北極海航路の戦略的重要性が年々高まっていることを示すものであり、前年からの大幅な増加である。

記事参照：Arctic shipping hits record high with nearly 3 million tonnes of cargo in 2024 - ArcticToday (2024.12.10/Arctic Today)

英国の新興企業の物議を醸す 北極海水再凍結計画



英国のスタートアップ企業であるReal Ice社は、気候変動による深刻化する影響に対処することを目的として、画期的だが物議を醸している北極海の海水を再凍結させる技術の開発に取り組んでいる。北極域は地球の平均気温よりも4倍の速さで温暖化が進んでおり、海水が驚くべき速さで失われている。海水の減少は、海面上昇、気象システムの混乱、生態系の危機など深刻な影響をもたらす。Real Ice社は、海水を人工的に厚くするという構想を提案しており、科学者や環境保護活動家の間で、期待と議論の両方を巻き起こしている。

記事参照：UK startup's controversial plan to refreeze Arctic sea ice - ArcticToday (2024.12.13/Arctic Today)

視野の拡大：アラブ首長国連邦（UAE）の北極圏への戦略的進出

北極域が環境および地政学的な変革を遂げる中、UAEは北極域関連の事業に投資することで、北極域諸国との関わりを深めている。この傾向は、DP World社とRosatom社の合意や、最近のアブダビの皇太子によるノルウェー訪問に最も顕著に表れている。

記事参照：Expanding horizons: The UAE's strategic foray into the Arctic - ArcticToday (2024.12.11/Arctic Today)

デンマークの福祉サービスに 対するグリーンランドの抗議 強制的な児童引き離しについ てグリーンランドの見解



グリーンランドの都市や町で数百人のグリーンランド人がデンマークの児童福祉政策に抗議している。これは、デンマークのグリーンランド・イヌイットの子供たちのうち、デンマークの児童福祉制度によって家族から引き離される子供の割合が非常に高いことを浮き彫りにしている。これらの子供たちは、言語的・文化的な同化に直面し、アイデンティティや伝統を失う危険にさらされている。

記事参照：A view from Greenland about forced child removal as Greenlanders protest Danish welfare services - ArcticToday
(2024.12.12/Arctic Today)

グリーンランドは売り物ではない、と首相がトランプ氏の発言に反論

グリーンランドは売り物ではない、と選出された首相が月曜日に述べた。これは、600年以上にわたってデンマークの一部となっている広大な北極の島の「所有と支配」に関するドナルド・トランプ次期米大統領の発言への反論である。

「グリーンランドは我々のものです。我々は売り物ではありませんし、決して売り物になることはありません。我々は自由のために長い間闘ってきたことを忘れてはなりません」と、同島の首相であるMute Egede氏は書面によるコメントで述べた。

記事参照：Greenland is not for sale, its leader
says in response to Trump - ArcticToday
(2024.12.23/Arctic Today)

『北極域実践コミュニティ VOICES from the ARCTIC』は、北極域実践コミュニティの情報発信の活動の一環として、北極域の多岐にわたる社会的課題やその解決に向けた取組に関連するニュースを集めて、ダイジェストしたものです。北極域の社会的課題と世界的な課題との関連性を示すため、国際連合『持続可能な開発目標（SDGs）』の17の目標との対応関係を各ニュースに付しています。

【編集後記】

Vol.49は、2024年12月のニュースを掲載しています。
トランプ大統領による購入発言が話題を呼んでいます。2019年に続き2回目の発言であるということは、米国の本気度を示しており、今年3月に行われるグリーンランド議会選挙の行方が注目されます。（大西）

発行元: ArcCS II 国際政治課題 北極域実践コミュニティ事務局
監 修: 大西富士夫 (北海道大学北極域研究センター)
E-mail: tdcop@arc.hokudai.ac.jp
WEBサイト: <https://tdcop.arc.hokudai.ac.jp/>

